



涙を浮かべ別れを惜しむ子どもたち

(おわり)

復が現実のものとして見えてきた。

(平) 島原の乱以降、彼らの偉業は時代の闇に葬られ、国内で手がかりを掴むことは不可能になった。長崎のキリスト教関連遺産で世界遺産登録を目指す意味で、今回の訪問は重要な手がかりを発見する旅だった。天正遣欧使節とゆかりのある都市の博物館・大学・図書館・教会などと連携が可能になり、失われた時代の回復が現実のものとして見えてきた。

(天) 8年の歳月をかけ天正遣欧少年使節が帰国した時には、大友宗麟、大村純忠もすでに世を去り、使節団も大学生の年齢に達していた。信長から秀吉の時代になり、日本は禁教、鎖国へ向かっていた。

い出と感動にいつまでも眠れなかった。



浅野 未来さん
(福岡県 和白ヶ丘中学校)

大事な思い出がもう2つあります。1つ目は、イタリアのまちキエーティでのホームステイです。初めは言葉がなかなか通じずにとまどいましたが、最後のほうではイタリア語で話していても何となくわかるようになりました。日本のお土産にも本当に喜んでくれてとてもうれしくなりました。たくさんの物、それだけでなく気持ちももらって最後ではおたがいに泣いてしまいました。また会えると信じながらも、悲しい気持ちでいっぱいでした。今でもFacebookなどで連絡は取り合っています。このまま交流を続けてもう一度皆に会いたいです。

2つ目は、ローマ法王謁見です。ローマ法王謁見のために会場に行った時、掛け声などに圧倒されました。それだけローマ法王はたくさんの人に愛されているのだと驚きました。そんな中お説教をされたベネディクト16世からは威厳が感じられました。私は生涯一度も会えないかもしれないローマ法王に会えるチャンスくれた南島原市に感謝しています。日本を遠く離れてヨーロッパに来てみて、ポルトガルやイタリアの良さももちろん分かりましたが、日本の良さも分かりました。海外にはない日本の良い文化をこれからも大事にしていきたいです。私は今回学んだことを忘れずに、私の人生で生かしていきたいです。



森田 洋史くん
(神奈川県 栄光学園)

今回の派遣を通して、僕は非常に多くの事を学んだと思います。それは、社会的な面でも人間的な面でもです。初対面の僕にも気さくに話しかけてくれた人の優しさや、今回の企画を通して僕たちにたくさんの経験を積ませてくれた南島原市の皆さんの優しさ、そして今回同じ使節として互いに助け合ってきた使節の仲間たちの優しさ、多くの優しさに触れたことが心の成長につながったと思います。

また、日本（少なくとも僕らの周り）であまり宗教に関心が向けられていない事も改めて感じました。これはおそらく天正遣欧少年使節がヨーロッパを初めて訪れたときにも感じたことだと思います。だからこそ彼らは、日本に帰ってから布教を続けようとしたのかも知れません。僕は今回の体験を友達に話すことで、みんなの関心を向けていきたいです。



深野 果奈さん
(大分県 明治学園中学校)

私は、セミナリヨ授業から使節団までの貴重な体験をすることができました。この事業に参加することで、色々な人に助けて頂いたり、親切にして頂きました。天正遣欧少年使節の4人も同じだったと思います。彼らの、熱意や勤勉さはもちろんですが、色々な人の手助けがあったからこそ、8年間という長い年月を知らない国で過ごすことができたのだと思います。そして、まだ外国についてほとんど知らなかった日本に、イタリアやポルトガルの素晴らしさを伝えたかったのだと思います。4少年の見たローマと私の見たローマは、少し違うかもしれませんが、日本人として外国を見た感動は同じだと思います。そして、4少年が築いてくれた友好に少しでも、近づけたかなと思います。今回で学んだ彼らの歴史を、しっかりと自分の中で動かしたいと思っています。



小玉 裕介くん
(南島原市 北有馬中学校)

僕はこの体験を通して学んだことが4つあります。

1つ目は当時の4少年の派遣の際、現地へ行くことの苦労を改めて感じたことです。

2つ目は、ポルトガルやイタリアで見た、歴史的建造物の迫力や偉大さです。エヴォラ美術館では、今まで見たことのないような絵画がたくさんあり、全ての絵画に感動を受けました。特に、印象を受けたのが、パチカン美術館です。パチカン美術館の銅像は何かぼくたちに訴えていたような気がします。

3つ目は、コミュニケーションをとることの大切さです。たとえ、言語が通じなくても、身振り・手振りで、相手に伝えたいことを伝えることが大切と学ばしました。

4つ目は、いつも周りの人に支えられているということです。

今回の、この体験も国や市、その他関係者の皆さん、この企画に携わってくださった方々の協力やご支援があったからこそこの体験ができたと思います。



隈部 亮介くん
(南島原市 布津中学校)

これから11日間という時の中で自分はどんな人と出会い、どんな瞬間を経験するかなんて誰もしるよしもない。まったくもって天正遣欧少年使節は、8年もかけてこの遠い異国の地に向かうとき「不安」という言葉では足りないくらいの日々をどうやって過ごしたのか不思議なくらいだ。まあ、でもそれに勝る期待や希望が4少年の背中を押したに違いない。

教皇の説教が始まると、なぜか呼吸を合わせたかのように、一気に静まりかえった。その時初めて空気を読むことに成功したかのように思えた。そして説教が続く中、初めて感じたこの感覚。8日目に少し遅いような気がしたが、確かにやってきたこの瞬間。それは4少年の姿であった。これは、言葉で表現することが限りなく不可能に近い、科学的に何の根拠もそないが4少年が感じたであろう感覚が「ズキン！」と心につきささってきた。直接謁見こそできなかったものの一生…二生、三生？というとおおげさに聞こえるが、こんな完成されていない言葉を使用しなくてはならないほどの重みが、心に刻み込まれた。



森永 由衣さん
(南島原市 有家中学校)

450年前に日本にキリスト教を教えたヴァリニャーノ神父の祖国キエーティ市を訪問しました。市長の話の中で「このキエーティ市を通して日本との交流を深めていきたい。ぜひ、皆さんにその架け橋になってもらいたい」と話がありました。私は、将来できることがあればしたい！と、心に誓いました。

この旅は私の人生の中の最も貴重な体験の1つになります。また、いろんなことを勉強して、将来絶対もう一度行きたいという夢ができました。

今回の旅で仲良くなった友達は一生忘れられない仲間です。大人になったらまた行こうね。と約束もしました。

南島原の歴史、ヨーロッパとのつながり、人、心、などいろんなことに気付かされた旅でした。

ポイント④



今回の交流で、キエーティ市庁舎前にあるヴァリニャーノ像の台座に「口之津」が刻印されました。

平成遣欧少年使節団を終えての感想

8月1日から11日までのヨーロッパ派遣を終え、中学生は何を感じ、何を学んだのでしょうか。参加した中学生の感想を紹介します(感想の一部を抜粋して掲載)。



近藤 聡一郎くん
(東京都 暁星中学校)

11日間の旅を振り返ってみると、2つの事が心に残った。1つは、ヴァリニャーノ神父と4少年が結んだ南島原から世界への道を、東京出身の僕がたどったということ。今度は、僕が新しい道を作っていく番なのではないか、と思う。

もう1つは、自分の人生にとってこのヨーロッパへの旅が新しい物の見方を与えてくれたという事だ。僕は英語ができるので、何の根拠も無く現地でもどうにかなるだろうと勘違いしていた。しかしホームステイをしてみると、英語はYesかNoしか通じず、とても苦労した。これからはより謙虚な気持ちで外国語や文化について学び、日本と外国との架け橋になりたいと思うようになった。



大村 里香さん
(南島原市 加津佐中学校)

私はこの11日間で勉強にもなったし、ヨーロッパの文化も学ぶことができました。

海外に行くのは初めてでとても楽しみでした。わからないこともたくさんあったけど、それも思い出に残っています。キエーティでのホームステイはイタリア語はわからないので英語で会話をしました。

これから、いろいろな国の言葉を覚えてまた海外に行ったときに現地の人と話せるようにになりたいです。

今回、ヨーロッパ派遣に参加できてとてもうれしかったです。10日間で貴重な体験ができました。10日間、本当にありがとうございました。